

国立国語研究所学術情報リポジトリ

新聞切抜きデータベースの作成とその活用例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池田, 理恵子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002935

新聞切抜きデータベースの作成とその活用例

池田理恵子

(情報資料研究部第一研究室)

0. はじめに

- 「ことばに関する」新聞記事資料の蓄積
- 資料の活用とデータ公開のために： データベースの作成と著作権処理
- 資料を利用して： 日本語をめぐる状況やことばについての意識・価値観（のあり様や変化）を探る手がかり — 「人の呼び方」を例に

1. 「ことばに関する」新聞記事の収集と整理： 『切抜集』の作成

1.1. 収集の目的

言語及び言語生活に関する世論の動きをとらえるための情報収集の一つとして

1.2. 収集対象・基準

- 1949（昭和24）年～1989（平成元）年4月…全国紙・ブロック紙，専門紙等
1989年5月～ …朝日・毎日・読売（東京本社版）
- 多様な記事層： 政治・経済・社会面，論説，家庭，投書欄，地域面等全般
- 収集基準： 「ことばに関する内容」
ことばについての意識・意見や知識・情報を伝えている記事
（記事中の特定の語や表現に注目して収集しているのではない）
- 『新聞所載国語関係記事切抜集』として整理（約850冊）

1.3. 『切抜集』の特色

- 50年以上にわたって，「言語」「言語生活」という特定の視点で収集された，日本で唯一のまとまった新聞記事資料
- 日本語をめぐる状況やことばについての意識・価値観（のあり様やその変化）を探る手がかり

2. 「見出しデータベース」の作成

2.1. 「見出しデータベース」作成の背景

- 記事の量が多い
- 発生順に並べられていて，体系的な記事目録がない
- 写真・図・表が含まれている
- 本文テキストデータの作成が困難（切抜きの劣化，小さな活字，レイアウト，等）
→『切抜集』活用のための第一段階として，「見出しデータベース」作成

2.2. 「見出しデータベース」の特色

- 「ことばの研究のためのデータベース」としての検索情報
- 50年以上の記事データを収録（新聞界における記事データベース構築の機運の高まりは1980年代半ば）

2.3. 「見出しデータベース」の構成（データ管理用の作業項目を除く）

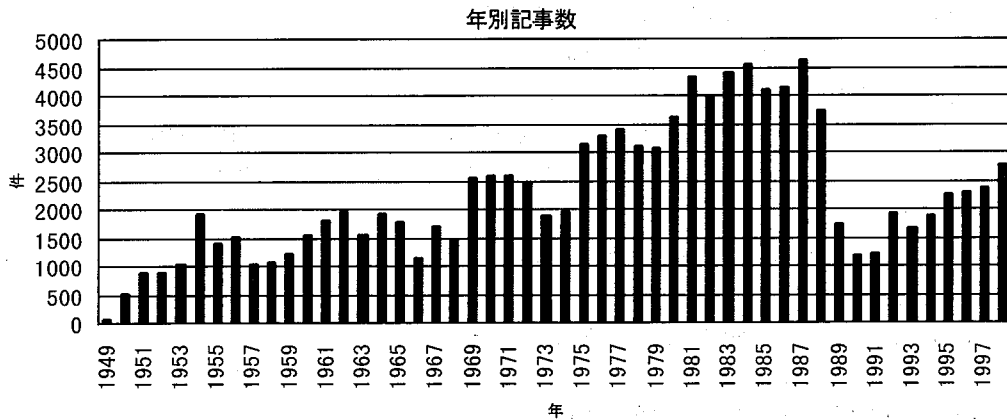
項目名	入力形式	
1 IDナンバー	K(9)	レコードの識別番号
2 台帳番号	Max 9(5)	『切抜集』の冊子の通し番号 (0～)
3 記事番号	Max 9(5) (可変長)	『切抜集』の台紙の番号に枝番「0」を加えたもの
4 年	9(4)	掲載年。西暦4桁
5 月日	9(4)	掲載日。月2桁, 日2桁
6 新聞名	K (可変長)	掲載紙名
7 朝夕	K	選択肢 朝 夕刊以外のすべて (週刊紙・季刊紙なども含む) 夕 夕刊
8 地方版	K (可変長)	全国紙の東京本社版以外
9 ページ	Max 9(2) (可変長)	掲載ページ
10 掲載面	K (可変長)	「社会」「家庭」などの面の名称 日曜版などの別刷の名称
11 執筆者属性	K (可変長)	選択肢 内部 新聞社内部の人が書いた記事 依頼 新聞記者以外の専門家が書いた記事 投書 投書欄の記事 投書・内部 読者の質問に新聞記者が回答している 投書・依頼 読者の質問に専門家が回答している
12 氏名	K (可変長) △K(可変長)	依頼や投書・依頼の記事の執筆者の氏名 対談・座談会・シンポジウムの参加者の氏名
13 欄名	K (可変長)	
14 見出し	K (可変長)	
15 備考	K (可変長)	見出しだけでは内容が把握できない場合の補足的情報
16 キーワード候補	K (可変長)	記事の分野・内容を示す。所定の84個の中から選んで入力する。
17 フィールド	K (可変長)	記事の内容を端的に表す語句。記事に使われている語句をそのまま用いることもある。

2.4. 「見出しデータベース」の検索情報（キーワード候補）

- 記事が扱っている内容・分野を示す情報を「キーワード候補」と呼び、84個設定。
- 一つの記事について、原則として、1～5個のキーワード候補を付加。
- 内容によって収集件数に多寡があり、より細かく分けた分野もある（厳密な上位・下位といった分け方ではない）。仮にA～Pに分けて示す。
 - A 言語・日本語・日本文化についての学的研究に関するもの
言語学 日本語研究 日本語の起源 外国語研究
 - B 音声・音韻に関するもの 音声・音韻
 - C 文字・表記に関するもの
文字 漢字 漢字制限 仮名 仮名遣い 送り仮名 外来語の表記 ローマ字 用字
表記 {縦書き・横書き, 分かち書き, 振り仮名, 句読法など限定的。}
 - D 語彙・用語に関するもの
各種用語 差別用語 外来語 流行語 成句 語源
語彙・用語 {(上記以外の) その他の語の意味・用法について}
 - E 命名に関するもの 命名 人名 地名
 - F 文法に関するもの 文法
 - G 文章・文体に関するもの 文章 文体

- H 方言・共通語に関するもの **方言 共通語**
 ※地域が特定できる場合は、「北海道／東北／関東／中部／近畿／中国／四国／九州／沖縄／東京」の中から選んで、「方言（北海道・東北）」のように入力している。
- I ことばと社会に関するもの
新聞 放送 出版 広告・宣伝
 言語生活 {名刺, 印鑑, など限定的。(他に収まりにくい)「雑」のようなもの。}
 コミュニケーション {ユーモア, うそ, デマ, など限定的。(他に収まりにくい)「雑」のよ
 うなもの。}
 非言語行動 生活時間調査 言語遊戯 言語芸術 表示・標識 言葉遣い あいさつ 敬語
 呼称 男言葉・女言葉 話す・聞く 書く・読む 読書 電話 郵便 図書館
 情報化社会 {電子機器の利用やその影響など。タイプライターなども含む。}
- J ことば一般に関するもの, 日本語と外国語 (随筆など)
 日本語 外国語 {日本語の特質, 美しい日本語, 異文化コミュニケーションにおける日本語
 ／外国語の使用, など。}
 アイヌ語 翻訳 異文化コミュニケーション
 比較研究 {異なる言語間での, ある言語事象についての比較対照に関して(学術的なものに
 限定しない”。)}
- K 国語国字問題・ことばの規範意識などに関するもの
 言語問題 {海外の言語問題を含む。問題が特定できれば(送り仮名など)そのキーワード候
 補だけを付けて、「言語問題」は付けない}
 言語政策 {国語審議会の答申など, およびそれらに対する意見も含む。}
- L ことばと学習・教育に関するもの
国語教育 海外・帰国子女教育 幼児教育 日本語教育 外国語習得 言語障害 識字
- M 国語学的資料に関するもの
辞典 言語資料 {木簡・古文書の発見など}
- N 言語・日本語関係諸学会の設立・動向に関するもの **学界動向**
- O 国立国語研究所に関するもの **国立国語研究所**
- P 海外の言語事情に関するもの
海外言語事情 {諸外国における, 日本語・日本語教育などに関するもの, 及び, 諸外国にお
 ける, 日本語以外の言語(事情)に関するもの。}

2.5. 「見出しデータベース」の件数： 約 11 万件



- 検索結果を量的に扱う場合には注意が必要（記事の多少を，単純に，関心の高さと結び付けることは避ける）
- 1989年5月の収集基準の変更
 - ・収集対象紙を3大紙に
 - ・クイズや豆知識的な（連載）記事は，原則として，収集対象外に
- 特集や連載の有無により，新聞紙数や記事数に大きな違いが見られる。
- 複数の新聞に共通して取り上げられるような内容（国語審議会の答申等）の場合，新聞紙数や記事数が多くなりがち。

3. 「記事本文画像データベース」の作成

3.1. 「記事本文画像データベース」作成の背景

- 「見出しデータベース」の利用
- 冊子体のままで利用する際の制約
 - ・ページをめくり記事を探す手間と時間
 - ・『切抜集』でしか読めない記事
- 原資料の保存（切抜きの劣化が進んでいる）
- 『切抜集』活用のための第二段階として，「記事本文画像データベース」作成

3.2. 「記事本文画像データベース」の構成

- 「見出しデータベース」の「見出し」「キーワード」等により記事を検索し，照合情報でリンクされた本文画像データを表示する
- 画像データは，G4圧縮のtiff形式を基本とし，「見出しデータベース」との照合情報である「IDナンバー+予備桁」をファイル名として付与する。
- 作成の基本方針：『切抜集』→マイクロフィルム→デジタル変換・照合情報付与
 - ・「見出しデータベース」のレコードと切抜きとの対応の多様さ
 - ・切抜きの整理のしかたの多様さ
 - ・切抜きの破損・紛失防止
 - ・保存媒体の複数化

4. データベース作成・公開に向けての著作権処理

- 著作権は法律上，著作物の公表後50年間，あるいは，著作者の死後50年間に渡って保護されている。著作物（記事）を複製利用するためには著作権者の許諾を得ることが必要。
- 切抜き記事の著作権の所有者
 - ・新聞社，署名記事の執筆者，投稿者（及びその著作権継承者）
 - ・著作権者の特定・連絡先調査の難しさ
- 記事利用許諾依頼の内容
 - (a)国語研究所自身の技術的保存手段として画像データ化すること
 - (b)作成した画像データを，CD-ROM等の電子媒体によって，利用希望者に提供すること（ただし，学術研究・教育利用目的を前提とする）

5. 新聞記事を利用した研究の可能性

○池田・辻野(1998)

○尾崎(1995,1996), 田上(1992)等

新聞というメディアの特性や記事選択に際しての「新聞社の配慮」を無視することはできないが、ことばをめぐって何が変わり、何が変わらないのか、変わったとしたらどのように変わったのか、『切抜集』は一つの手がかりを与えてくれるように思う。

6. 『切抜集』及び「見出しデータベース」の活用例―「人の呼び方」の場合

6.1. 人の呼び方

話し手が相手をどう呼ぶか(呼称)は、相手との間の社会的・心理的距離に応じた話し手の心的態度を表す言語手段の一つ。呼称は単語レベルで言語形式の選択を求められるという点で、人々がその選択に苦慮したり、適不適に大きな関心を抱いたりするもの。そして、ある関係において選択された呼称の形式については、呼びかける立場から、あるいは呼びかけられる者として、また第三者の立場から、さまざまなかたちで関心が寄せられ、ある場合には、「問題」として扱われる。『切抜集』には、そのような関心や「問題」意識を探る手がかりとなるような記事が収録されている。

6.2. 「人の呼び方」に関する記事

○「見出しデータベース」で検索

「キーワード候補」欄に「呼称」。「フリーターム」欄に<固定>の「親族の呼称」

○検索結果(1949年～1998年) モニター版(1999年5月)に基づく集計結果。

2,312件(記事全体の約2%) その後修正があり、現在の件数は若干異なる。

執筆者属性別の件数 ※複数の投書を記者がまとめて紹介しているような記事の場合、

投書 969件(41.9%) 「投書」でなく「内部」として処理されている場合がある。

内部 782件(33.8%), 依頼 502件(21.7%), 投書・内部 44件(1.9%), 投書・依頼 15件(0.6%)

○記事数について

- ・特集の有無により左右される
- ・新聞紙数や年代によっても大きく異なる

○投書について

- ・投稿者は社会全体の構成員の中から均等に現れるわけではない
性別：男性(約3割), 女性(約7割)
年代：30代・60代(約2割), 10代(約5%), 20代・40代・70代以上(10～15%程度)
職業別：主婦(4割強), 無職・会社員・学生(約1割)
- ・内容は、投書という行動を起こさせるほどの強い印象を与えたものに傾きがち
- ・「新聞社の配慮」(掲載にあたっての取捨選択, 肯定・否定のいずれか一方の意見が掲載されると他方の意見も掲載される傾向にある等)

⇒日常の言語生活の縮図を表しているわけではない。

しかし、投書において語られている内容もまた現実の一部であり、それぞれの時代の社会における言語生活や言語意識の一端を浮かび上がらせるものであることは否定できないと思われる。

6.3. 生徒同士の呼び方に関する記事（投書を中心として） 〈資料参照〉

6.3.1. 女子生徒の男子生徒に対する「クン付け」

1950年代～1970年代半ばに問題として取り上げられることが多いのは、女子生徒（及び女性教師）の男子生徒に対するクン付け。

どのようにとらえられているか

どちらかといえば批判的・否定的：◇（資料の表中では×）

どちらかといえば好意的・肯定的：○（資料の表中でも○）

中立的（事実の指摘にとどまる）：△（資料の表中）

◇「クン」は「男に」でなく「男が」使うことば。「同輩か、目下の者に対して用いる敬称」男の専用語。

◇男女同権のはき違いを助長する。男性を気安くあしらうことになる。

◇「乱暴で汚い」「ひどい」「慎みたい」。女性は「女らしく」「美しい言葉を」

◇女子生徒のクン付けは、女性教師の男子生徒へのクン付けの影響。「女らしい美しい言葉」を身につけさせるために、教育現場での「指導」を

北村(1977) 「こういう現象は戦前には全く見られない光景であったし、戦後といえども直ぐに始まったことではない。私などの年配から、こういう現象を見ると何とも興ざめた思いがする」(p.105)

野元(1987) 「わたし自身は特に女の先生が『××君』と呼ぶことに抵抗感があります。『××君』は男のことばだからです。」(p.20)

「これからの敬語」（昭和27年、国語審議会第14回総会）「2 敬称」「4『くん（君）』は男子学生の用語である。それに準じて若い人に対して用いられることもあるが、社会人としての対話には、原則として『さん』を用いる。」

○男女の不平等に異議を唱えるもの、女性のクン付けを問題視することそのものに疑問を投げかける意見も

6.3.2. 女子生徒の男子生徒に対する「呼び捨て」

1970年代からは、女子生徒の男子生徒に対する呼び捨てが問題として浮上。

1980年代以後は、問題とされる呼称のほとんどが呼び捨てになり、「クン付け問題」を扱う記事はほとんど見られなくなる。

◇「乱暴」「乱れ」

◇親しみを感じさせるものだとしても「女らしさ」「思いやり」を。学校で指導を。しかし、「女子の男子への呼び捨て」は「男女の区別なく呼び捨てにし合う」というかたちで浸透していったよう。

6.3.3. 生徒相互の「呼び捨て」

◇「親しき仲にも礼儀あり」と「指導」を求める

○学校側の反応「呼び捨ては親しさを表すもの、そのうちきちんと話すようになる」
⇒親（投稿者）の心配や問題意識とはややズレがあるよう

○子供たちの反応：呼び捨てについてあまり気にしていない、男女が同じように呼び捨てにすることを当然のことととらえているよう

⇒対異性という感覚よりも、対等な人間関係、仲間意識の反映と考えられるのではないか

○数は少ないが、条件付きで呼び捨てを好意的に受け止める意見も

6.3.4. 上級生に対する「先輩」

1970年代後半から、上級生に対する「先輩」という呼び方についての指摘が現れる。

◇「身分関係」をはっきりさせるための使用，上下関係を強調するようでおかしい

◇「先輩」という呼び方やめようという校長宣言も

6.4. 学校における呼称に関するアンケート調査から

八代(1983) 1982年調査，高校生対象

男→男：「姓だけ」圧倒的に多い。男→女：「姓+サン」最も一般的，次に「姓だけ」。女→女：「姓+サン」「あだ名」「名だけ」が多い。女→男：「姓+クン」が圧倒的に多い，次に「あだ名」。

金丸(1993) 1992年調査，女子学生101人対象（異性の同級生の呼び方）

姓+クン92名だけ77名+クン74名姓だけ70名前の省略形+チャン50（人）

小林(1998) 1998年調査，都立高校2年生146人対象

男/女→男：「クン」，男/女→女：「サン」「チャン」

「呼び捨て」も多く，「姓名の一部を含む愛称」や「あだ名」を使う。

女子の「姓の呼び捨て」：→女8.4%，→男11.6%

※男子に対する「クン」，女子に対する「サン」という使い分けは定着のよう（定着が進み，1980年代以後，紙上であまり扱われなくなったとも考えられるか）。

※女子生徒の「呼び捨て」は着実に広まりをみせているよう（ある程度浸透してしまえば，紙上で問題とされることは少なくなるのではないか）。

6.5. 女性の男性へのクン付けについての意識調査から

田中(1969) 1964年調査 大学生男女各100人

若い女性が同年配の男性を「クン」と呼ぶのは「好ましくない」

51歳以上では61.3%，30歳以下では44.4%

※1960年代において，既に若年層では抵抗感が減っている

石野・稲垣(1987) 1987年調査，東京・大阪16歳以上1,284人対象

女性が男性をクン付けで呼ぶのを「不愉快だと思わない」

若年層では5～7割，高年層で2～3割，という対照的な結果

安平(1992) 1991年調査

(a) 女性が同年代や年下の男性に「〇〇くん」と言う場合

(b) 男性の上司が女性の部下に「〇〇くん」と言う場合

全体では抵抗のない人が過半数を超える。特に，(a)の場合，若年層では7割，中高年層では4～5割が抵抗を感じない。

※女性の男性へのクン付けについての抵抗感の薄れ。使用の浸透。紙上での沈静化。

1995.2.20 読売朝刊 「呼び方調査」の結果

1994年調査，博報堂生活総合研究所，首都圏の18～69歳の約400人を対象

(a) 女性に対して「同年代の知人の男性をどう呼ぶか」

「姓+サン」 30～40代(56%)，50～60代(77%)

「姓+クン」 10～20代 (48%)

「姓のみ」 10～20代 (11%)

(b) 男性に対して「同年代の女性にどうよばれたらうれしいか」

「姓+サン」 10～20代 (23%) 30～40代 (57%), 50～60代 (57%)

「姓のみ」「名前のみ」 10～20代 (30%)

※10～20代は、1980年代以後（紙上、「呼び捨て」問題視）の小学生。

※学校における呼称／社会人の間での呼称

6.6. 職場における人の呼び方（見出し列挙）

6.6.1. 「職階+さん」

◇「三流」会社の判定法 [社内で上司を呼ぶのに社長さん、部長さんなどと、さん付けて呼ぶ会社] (1964.7.18 朝日朝刊「季節風」)

◇教わりたい名前の呼び方 [入社時、上司「職階さん」、先輩・年上「名前さん」、同僚「名前」、年下「君」その後「職階+さん」はおかしいという意見が認められ、直立不動の態度が消え自然なものに] (1978.5.16 サンケイ朝刊「職場から」投書)
国立国語研究所(1982) 1975年面接調査 女性事務員の場合、主任以上の職階の人に対しては、職階名だけの呼びかけよりも職階サンの形のほうが優勢（東京）。

6.6.2. 「職階」「名前+さん」「名前+くん」

1970年代には、「さん」「くん」をめぐる殺人事件も

◇「さん」と「くん」 呼び捨て殺人事件 古参だが年下のクセに 日ごろの憤まん爆発 上役・下役・ご同役呼称考 (1975.6.5 東京朝刊「ニュースの追跡話題の発掘」)

◇職場における「サン」と「クン」 [クンという呼び方には身内意識・面倒をみているという意味もあろうが呼ばれた方はいい気がしない。サンと呼ぶことは相手を一個の人格者と認める響きがある。] (1980.3.125 サンケイ朝刊「職場から」投書)

1980年頃から、「さん付け」への志向を表す記事が増えてくる

○企業に広まる「さんづけ」運動 社内に自由な空気 新しい発想生む (1985.11.6 読売朝刊)

○女性上司と付き合う法 言葉一つにも気遣う心情察しよう [男性の部下の呼び方、クンでは横柄に聞こえるかも、サンでは上司としての威厳がなくなる、いっそのこと「ちょっと」にしようか] (1986.11.17 日経夕刊)

○労働力流動化時代 たとえば…若手が上役になっても「さん」づけで呼ぼう 伸びる企業の知恵 同友会が提言 (1987.3.11 日経朝刊)

○役職名の呼称 さん付けがいい (1987.3.20 読売朝刊 投書)

◇「さん」づけに異論 [(職階で) 敬意を表して呼んでこそけじめがある] (1984.7.25 西日本朝刊 投書)

1990年代、「さん付け」への志向（の加速・浸透）を表す記事

○役職名やめ、さん付け16% 国際化進んだ企業ほど定着 (1992.6.14 読売朝刊)

○社内「さん」づけいま3割 「自由な社風を」「課長」に罰金科した社も (1996.2.9 朝日夕刊)

6.7. 夫婦の呼び方（投書を中心に）

6.7.1. 夫は妻をどう呼ぶか（89件）

「おかあさん類」「ママ類」「名前（呼び捨て以外も含む）」「おい類」「愛称」

6.7.2. 妻は夫をどう呼ぶか（71件）

「おとうさん類」「パパ類」「名前（+さん/+くん等）」「あなた」

※「あなた」：時代あるいは（家庭生活の）時期によって意識の変化がありそう

○「あなた」と呼べない。いつになったら…「あなた」と呼べるようになるかしら。

（1955.12.6 東京朝刊「あけくれ」, 23歳女性）

○「あなた」と呼べない私。本当は甘えて呼びたい。恥ずかしくてどうしても呼べない。いつかきつと呼びたい。（1971.11.28 読売朝刊「お茶の間論壇」, 30歳女性・主婦）

○甘さから尊敬へ移る。「あなた」から子どもが生まれて「パパ」、子どもが成長して「おとうさん」に。（1971.11.28 読売朝刊「お茶の間論壇」, 38歳女性・主婦）

※「名前」：1980年代以後、夫婦が名前で呼び合うことに好意的・積極的な意見が多いよう。

○夫婦の呼び方、せめて家では平等でいたい。友達から発展したので「名前+くん」。

（1989.4.12 西日本朝刊「生活」, 23歳女性・主婦）

○うちのルール、名前で呼んでね。「おとうさん」は使わない。結婚18年、気持ちだけでも若々しくいたい。（1998.5.3 読売朝刊「気流」, 48歳女性）

6.7.3. 夫のことを話題にするときどう言うか（68件 cf. 「妻を話題にするとき」18件）

「主人」について

1950年代は、投書全体としては肯定派のものが多いう

◇不愉快。戦後10年も経っているのに。明治・大正それ以前の封建的な主従関係を表現する言葉。この言葉を除去して婦人を家庭内から向上するよう提唱する。

（1954.9.7 読売朝刊「会議室」, 48歳男性）

◇いささか時代錯誤的（1955.10.19 朝日夕刊「ひととき」, 27歳女性・主婦）

○「主人」でよい。封建的な主従関係を表すものではない。ことばの意味や使い方は時代とともに移り変わる。「主人」に代わる適当な呼び方がない。夫婦のあり方は呼び方によってかわるものでない。（1954.9.7 読売朝刊「会議室」, 35歳女性・無職）

○「主人」が時代にそぐわぬとは言えない。一家の代表・主の男性である夫ということ。（1957.2.3 東京朝刊「あけくれ」, 31歳女性・主婦）

1973年「夫を主人と呼ぶこと」に関する特集（12.2 読売朝刊「気流」）

否定派「妻が終身雇用みだい」「呼ぶのにこだわりがある」

肯定派・中立派「一家の柱だからあたりまえ」「こだわらない」

1989年「夫婦の呼び方」についての特集（4.12, 4.26 西日本朝刊「生活」）

1980年代以後、（抵抗感を少なくするための）投稿者なりの解釈のしかた、代替案も

◇○「主人」とは「世帯主」のこと（1989.4.12 西日本朝刊「生活」, 41歳女性・主婦）

◇○主夫と主婦 一家の代表は主夫、女の代表は主婦。混乱しないように夫を人と替えて主人と解釈。（1997.4.10 朝日夕刊「私も一言」, 66歳女性・主婦）

◇「夫婦し主従関係ではない」「男尊女卑では」「対等な関係を」

◇私の場合は「連れ合い」（1982.5.28 朝日朝刊「声」, 42歳女性・自由業）

- ◇習うより慣れろ「夫」という言葉 (1984.5.11 北海道朝刊「読者の声」, 42歳女性・主婦)
 - 賢明な女性は主人を立てる (1985.8.13 サンケイ朝刊「こだま」, 68歳男性・自営業)
 - 看護婦として活躍していた20代の女性が仕事を辞め, 自信と誇りに満ちて「主人」と言う (1987.9.18 北海道朝刊「いずみ」, 40歳女性・主婦)
- 遠藤(1987) 改まった場面(夫の勤務先の上司, 同僚に対して)で8割近く, くだけた場面(友達に対して)でも約6割
- 最上(1988) 全国20歳以上の男女2,000人対象 抵抗感・全体で3.7%

6.8. その他

- ・親をどう呼ぶか

1960年代, 1970年代 「パパ・ママ」論争

1980年代 「あんた」「お前」「ねえ」「ちょっと」(必ずしも否定的でない)

- ・子をどう呼ぶか 1970年代, 1980年代 「親ばか」「ちゃん」論

- ・見知らぬ人同士の「おばさん」「おじさん」「おばあさん」「おじいさん」

参考文献

- 池田 理恵子・辻野 都喜江(1998)「国立国語研究所新聞記事データベース—ことばに関する記事 1949年～現在—」『国立国語研究所創立50周年記念 研究発表会資料集』(非売品), pp.189-194
- 石野 博史・稲垣 文男(1987)「現代人と敬語 第1回言語環境調査から」『放送研究と調査』37-7, pp.15-29
- 井上 優・池田 理恵子・辻野 都喜江(1994)「国語研究所所蔵新聞記事を利用した研究について(覚え書)」『研究報告集』15, pp.141-163
- 井上 優・辻野 都喜江(1992)「『国語関係新聞記事データベース』について(中間報告)」『研究報告集』13, pp.165-193
- 遠藤 織枝(1987)『気になる言葉—日本語再検討—』南雲堂
- 尾崎 喜光(1995)「発話もたらす対人効果の研究(1)—投書におけるメタコミュニケーション行動の分析—」『研究報告集』16, pp.1-31
- (1996)「発話もたらす対人効果の研究(2)—発話機能を軸とした分析—」『研究報告集』17, pp.57-92
- 金丸 芙美(1993)「人称代名詞・呼称」『日本語学』12-6, pp.109-119 明治書院
- 北村 季夫(1977)「VI どのように敬語を身につけさせか—小学生の場合—」『あなたも敬語が正しく使える』, pp.149-155 学燈社
- 国立国語研究所(1982)『企業の中の敬語』三省堂
- 小林 美恵子(1998)「学校の呼称—女性教師の呼称「〜クン」を中心に—」『日本語学』17-9, pp.32-36 明治書院
- 田中 章夫(1969)「敬語論議はなぜ起こる」『言語生活』213, pp.25-35,68 筑摩書房
- 田上 稔(1992)「方言復権の軌跡」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』4, pp.15-31
- 塚田 実知代・尾崎 喜光(1998)「中学・高校のクラブ活動・部活動における呼称」『日本語学』17-9, pp.41-44 明治書院
- 野元 菊雄(1987)『敬語を使いこなす』講談社
- 最上 勝也(1988)「『女性の時代』のことば意識 全国オムニバス調査から」『放送研究と調査』38-12, pp.18-25
- 八代 京子(1983)「高校生の呼称」『機能によることばの分析』文化評論出版
- 安平 美奈子(1992)「第6回言語環境調査から 「敬語」に自信がありますか」『放送研究と調査』42-5, pp.58-63

台帳 番号	記事 番号	年	月	日	新聞 名	朝 夕	欄 名	見出し	備考	キー ワード 候補	フリー ター ム	生徒 同士の 呼称： 評価	学校	投稿 者の 立場	性 別	年 代	職業 分類
1	4	800	1951	126	毎日	夕	読者から	『君』と『さん』		呼称 敬語		①×姓+くん：女→男 ②△姓+さん：男→女	小	三	男		社員
2	34	560	1955	320	読賣	朝	気流	女学生の言葉遣いについて	男子生徒を「～君」と呼ぶ	言葉遣い 男言葉・女言葉 呼称 敬語		①×+くん：女→男 ②△+さん：男→女	中高	三	男		自営業
3	41	350	1955	1009	毎日	朝	投書	男女共学とコトバの変化		呼称 敬語 男言葉・女言葉	敬称	①△姓+さん：男→女 ②○姓+くん：男→女 ③△姓+さん：男→男	高	三	男		教員
4	65	6990	1957	1013	毎日	朝	投書	君呼ばわり 時代はかわりつつある		呼称 敬語		○姓+さん：男女→女 姓+くん：男女→男	三		女		主婦
5	65	6990	1957	1013	毎日	朝	投書	君呼ばわり 要は生徒の性格と態度		呼称 敬語		○①会合：+くん：→男、+さん：→女 ②クラブ：+くん：女上級→男下級	三		不詳		教員
6	65	6990	1957	1013	毎日	朝	投書	君呼ばわり 男の呼びすてこそ失礼		呼称 敬語		○+くん：女→男	主・三		女		学生
7	65	6990	1957	1013	毎日	朝	投書	君呼ばわり 女らしい美しい言葉を		呼称 敬語 男言葉・女言葉		×+くん：女→男	三		女		主婦
8	97	120	1960	806	毎日	朝	女の気持	乱雑な日常用語	呼び捨てやめ	呼称 敬語		×呼び捨て	三		女	20	教員
9	124	1460	1962	1126	中日	夕	発言	ことばづかいを正しく		言葉遣い 呼称		×呼び捨て：女→	三		女	10	学生
10	129	930	1963	430	東京	朝	声	ことば使いを正しく		言葉遣い 敬語 呼称	呼び捨て	×呼び捨て(名前)	三		男		公務員
11	149	640	1964	1213	朝日	朝		学校だより あだ名はイヤだ		呼称		×あだ名	中	主・相	男		学生
12	152	300	1965	304	毎日	朝	女の気持	気になる「くん」と「さん」の呼び方		呼称 敬語		×+くん：女→男	小	三	女	20	主婦
13	153	200	1965	404	朝日	朝	学校だより	アダナはいいな		呼称		○あだ名	中	主・相	女		学生
14	157	1260	1965	829	朝日	朝	学校だより	「あだ名」で親しみ		呼称		○あだ名	中	主・相	男		学生
15	164	2910	1966	328	北海道	朝	いずみ	あだ名		呼称 人名		△あだ名		相	女	30	主婦
16	198	560	1969	113	読売	朝	世論の広場 気流 特集	「これからの敬語」ぜひ一読を		敬語 呼称 男言葉・女言葉	「くん」付け	×+くん：女→男	三		男	20	学生
17	245	930	1972	1225	朝日	朝	声	やめよう女性の「くん」呼び		呼称 敬語 男言葉・女言葉		×+くん：女→男	三		男	20	学生
18	246	400	1973	112	サンケイ	朝	私の意見	男女の呼び方私はこう思う		呼称 敬語		○+くん：男→男 +さん：男→女 +さん：女→男女	三		女	50	教員
19	317	24620	1976	1220	毎日	朝	読者の広場	「君」付けと「さん」付け	女子が男子を呼捨てにする傾向	呼称 敬語 男言葉・女言葉		①×姓+くん・呼び捨て：女→男 ②△+さん：男→女	小中	三	男	20	学生
20	317	25150	1976	1228	朝日	朝	ひととき	呼び捨てで平気な女の子		呼称 敬語 男言葉・女言葉		×姓+くん・呼び捨て：女→男	三		女	30	主婦
21	329	980	1977	627	毎日	朝	読者の広場	アダ名で呼ぶのはやめよう		呼称 人名		×あだ名	三		男	10	学生
22	343	250	1978	122	東京	朝	発言	女の子の言葉遣いがひどい		言葉遣い 呼称 男言葉・女言葉 敬語	呼び捨て	×呼び捨て(名前)・お前：女→女	高	三	女	30	社員
23	346	400	1978	306	日経	朝	教育 イヤホン	「先輩」の裏に全体主義	高校生の使う「先輩」には、「絶対服従」的要素が強く感じられる	呼称 敬語		×先輩：→上級生	高				
24	354	460	1978	706	朝日	朝	読者のコーナー	子どもの長電話 娘を呼び捨て 今度は切るぞ		電話 呼称 敬語 話す・聞く	呼び捨て	×呼び捨て(名前)：男→女	高	三	男	40	社員
25	354	1110	1978	715	北海道	朝	いずみ	ニックネーム		呼称 人名		×あだ名	三		女	30	主婦
26	361	950	1978	1116	サンケイ	朝	私の意見	日本の伝統にそった敬称を		呼称 敬語		×+くん：女→男	三		女	40	学生
27	369	910	1979	311	朝日	朝	ひととき	日本語どうなるんでしょう		呼称 敬語	一人称 敬称	×+くん：女→男	高大	三	女	50	教員

台帳 番号	記事 番号	年	月	日	新聞 名	朝 夕	欄 名	見出し	備考	キー ワード 候補	フリー ター ム	生徒 同士の 呼称： 評価	学校	投稿 者の 立場	性 別	年 代	職業 分類
28	374	560	1979	524	北海道 朝日	朝		はがき 女生徒の「君づけ」		呼称 敬語		×+くん：女→女	中	三	男	30	社員 教員
29	392	3790	1980	217	朝日	朝	声	苦痛与えるアダナ呼び		呼称 差別用語		×あだ名		三	男	30	
30	421	10850	1981	420	読売	朝	家庭教育	先輩 中学生言葉 定着の周辺 タ テ社会志向の表れ 気になるちくは くマナー 「新しい風俗」と思えば 国語学者の見坊兼紀さん		言葉遣い あいさ つ 敬語 呼称		×先輩：→上級生	中				
31	425	18440	1981	629	読売	朝	親の気持ち	女の子が呼び捨てなんて…		呼称 敬語 男言 葉・女言葉		×呼び捨て：女→男	小	三	不詳 男	40	不明
32	436	34520	1981	1208	西日 本	朝		こだま特集 言葉の乱れ 『私は… するヒト』 おかしな言葉なぜはや る？		言葉遣い 呼称 敬語		×呼び捨て(姓)：男女	小	三	男	40	社員
33	481	13480	1983	530	朝日	朝	声	呼びすてには厳しく注意を	気になる小学生どうしの 呼び捨て 敬称をつける のは最低限の礼儀	呼称 敬語		①×呼び捨て：男→男 ②× 呼び捨て：女→	小	三	女	30	主婦
34	487	18570	1983	721	東京	朝	発言	特集 続・日本語の乱れを嘆く4 『くん』の使い方を正しく		敬語 呼称		×+くん：女→男		三	男	70	その 他教
35	525	24030	1984	824	朝日	朝	声	個性を置き忘れた「先輩」という呼 称		呼称		×先輩：→上級生	中高 大	三	男	50	教員
36	525	24030	1984	824	朝日	朝	声	個性を置き忘れた「先輩」という呼 称		呼称		×先輩	中高 大	三	男	50	教員
37	530	28590	1984	1011	東京	朝	発言	女の子の言葉遣いに心配りを		言葉遣い 呼称 敬語	名前の呼び 捨て	×呼び捨て：女→男	小	三	女	30	主婦
38	532	31530	1984	1106	サン ケイ	朝	私の意見	気になる女子中学生の言葉遣い		呼称 敬語		×呼び捨て：女→男	中	三	男	20	その 他主 婦
39	533	32500	1984	1115	サン ケイ	朝	私の意見	女性よ優しい言葉遣い失うまい		言葉遣い 呼称 敬語 男言葉・女 言葉	呼び捨て	×呼び捨て：女→男	小	三	女	30	主婦
40	533	32500	1984	1115	サン ケイ	朝	私の意見	名前の呼び捨てで先生にお願い		呼称 敬語		△呼び捨て：女→男		三	女	40	主婦
41	533	32500	1984	1115	サン ケイ	朝	私の意見	小学一年の長女の驚き	「お兄ちゃんのこと、神 岡と呼び付けていた」と 言って驚いていた	呼称 敬語 人名		×呼び捨て：女→男	小	三	女	30	主婦
42	552	13770	1985	528	東京	朝	教育11 0番	『○○ちゃん』の呼び方なぜいけな い		呼称 敬語		①○+ちゃん ②△+さん・ +くん	小	三	女		不明
43	557	18360	1985	714	サン ケイ	朝	私の意見	児童同士の名前呼び捨てに疑問		人名 呼称 言葉 遣い 国語教育		×呼び捨て：男女	小	三	男	40	自営 業主 婦
44	558	19180	1985	723	サン ケイ	朝	こだま	私も不快感じる名前呼び捨て		呼称 敬語		×呼び捨て	雑	三	女	20	
45	602	26630	1986	1103	東京	朝	発言	名前の呼び捨てこう思う(上 東京 都東大和市立小5年 あだ名で呼ん でほしいナ		呼称 敬語		①○あだ名 ②×呼び捨て	相	男	10	学生	
46	637	30290	1987	1028	朝日	朝	色鉛筆	甘ったれ	「先輩」と呼び、堅苦し い先輩・後輩の枠に互い を縛りつつ、甘え合う世 の中になった	呼称		×先輩：→上級生	雑				
47	638	31220	1987	1104	朝日	朝	家庭	センパイってなんだっけ あいさつ されないと、気がすまないみたい あしき伝統、人間に上下ない		あいさつ 呼称	先輩への呼 びかけ 学 校内の言葉	△×先輩：→上級生	中				
48	664	17820	1988	801	西日 本	朝	こだま	「呼び捨て」に思う		呼称 敬語		呼び捨て：①×女→男 ②○ 男→男	中	三	男	60	無職
49	754	1280	1995	220	読売	朝		さんづけ、呼び捨て年齢で違いくっ きり		呼称 敬語	男性に対す る呼び掛け						
50	775	1400	1996	1118	朝日	朝	私もひと こと	生徒呼び捨て先生でも失礼		呼称 敬語		○+さん：友人	中	主・ 相三	不詳 男	10	学生
51	780	1620	1997	420	読売	朝	気流 日 曜の広場	流行語 慣れぬ呼び捨て		呼称 敬語		①×呼び捨て(姓・名)：女 →男 ②△+さん・+ちゃ ん・+くん	専	三	男	50	社員